



第七十三号

雅楽之一夫人として

メルマガnoichi73号、今月のテーマは「雅楽之一夫人として」。

今月のメルマガでは、雅楽之一夫妻の結婚一周年を記念して、愛美(あい)夫人にお話を伺うことに致しました。

健康第一で、9月に元気な御子を産んで下さい!

・新婚生活一年を振り返って、慣れない新生活であったと思います。

そうですね、色々なことがありました。初めてなことが多くて、戸惑いもありましたが、念願のヨーロッパ旅行にも行けたし、バタバタも、オドオドも、ゼーンぶぶ楽しみました。

・雅楽之二さんの夫ぶりはいかがでしたか。

あはは。主人は家事が一通り出来るので、色々手伝ってくれるのは助かります。もともと優しい性格なので、頼りがいがあります。ただ、何を考えてるかよく分からない人なので、いちいち聞かないと納得できないことも沢山ありました。彼のお稽古のこととか、舞台や遠征前の準備だとか、私には分からないことが多いので、どこまで手を出していいのか、お互いの線引きは未だに曖昧な気がします。そういう意味では、もう少し対話が必要なのかもしれません。

・愛美さんは、普通の家庭にお嫁に行かれたのとは少し違うように思いますが、大変なことはありませんか。

そうですね。伝統のあるご一家なので、粗相があつてはいけないと思つています。そう思うが余り、遠慮し過ぎてる部分があるのかもしれない。でも、義理のお母様も、お祖母様も優しく教えて下さるので、本当に有難いことだと思つています。少しずつ勉強していきたいです。

・結婚して一番大きな変化はどのようなことでしたか。

妻として、どのように主人を支えていけばよいのか、その責任を与えられたことだと思います。主人が生きる社会には日本の古き良き風習が残っているので、四季折々のご挨拶や御礼の仕方など、お陰様で、目から鱗が落ちる日々を送っています。

・九月に第二子をご出産されるそうですね。おめでとうございます。ご体調など、順調でいらつしゃいますか。

はい、お陰様で。新しい命を授かったことで、沢山の方にお喜び頂き、またご心配を頂いております。私に出来ることは体調に気をつけて、元気な子供を産むことだけだと思つています。

・今後も、バイオリンの仕事はお続けになられますか。

はい、産休は頂きますが、今のところは復帰する予定です。お祖母様の靖子先生からも、自分の居場所を大切にするようにと教わつたので、続けられる限り、続けていくつもりです。でも、何が何でも続けていくと執着もしていません(笑)子育てのことや、主人の仕事の都合などで、私にとつての潮時と判断することもあるかもしれませんので。

・今後、雅楽之二さんの妻として求められることは、どのようなことだと思つていますか。

主人はよく、正派を守り、後世に伝え残していくことが自分の使命だと言つております。ですから私は、正派の歴史をもっと勉強し、なるべく靖子先生のお側にいさせて頂いて、主人の進むべき道を正しく理解していなければならぬと思つています。また同時に、私は全く関係のない外の世界から来た人間ですから、時に、主人の視野を広げてあげられるような存在でもありたいと思つております。

・出身、育つた場所、社会人になってからどこで過ごしたか。何をして過ごしましたか。

東京都府中市の出身です。今も両親は府中市に住んでおります。大学を卒業してから、私は青年海外協力隊の派遣でドミニカ共和国に二年ほど住み、音楽教師として

活動しました。今は音楽教室で、主にバイオリンを教えています。

・雅楽之二さんの好きなお仕事、結婚の決め手は何でしたか。

一番は、彼の芸術性を尊敬しています。音楽でも絵画でも、人つてこんなに感動出来るんだと思わせてくれたのは、彼が初めてでした。結婚の決め手は、食べ物の好みが合うところですかね(笑)



・雅楽之二さんに直してほしいところはありますか。

わりと細かい。特に、日本語の使い方など、一言一句指摘してくれるのは結構疲れます。あと、物をよく失くす人で、SuicaやPASMOなどは、何枚失くしたかわからないですね。あと、彼は遠征が多いので、なかなか一緒に旅行に行つてくれません。居られるときは、なるべく家にいたいみたいで。…結構ありますね(笑)

・洋楽畑の人から見た箏(邦楽)の印象、雅楽之二さんと出会ってから邦楽に対して変わった印象を教えてください。

色々ありますけど、まず第一に、演奏会が長いですよ。それには色々事情もあるんですけど、最初はとても驚きました。深く理解はしてありませんが、箏曲の作品から感じる歴史は本当に素晴らしいと思っております。主人は、自分が人と違うことをしたいとか、新しいことをしたいとか、個性を主張したいではなくて、あくまで伝承者としての使命を果たそうとしているように見えます。その姿勢は、洋楽の人には余りない感覚だと思います。

・洋楽、邦楽それぞれ好きな曲を教えてください。

私はバッハの作品が大好きです。シャコンヌは、いつ聴いても無心になれます。邦楽は曲名が覚えられなくて…。でも古典でも、唯是先生の作品でも、これ好きだな〜と感じる曲は沢山あります！

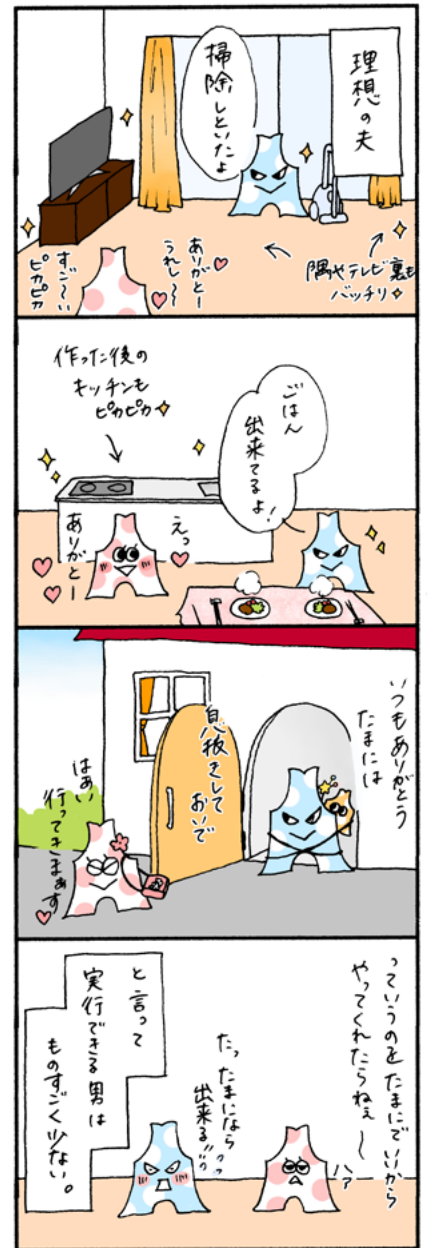


Illustration: morimoe

◎あとがき◎

育ってきた環境も文化も違う二人が一緒に住むとなると、楽しい発見もあるだろうが、妥協も必要になってくる。相談して決めなくてはいけない事がたくさんある。朝はご飯なのかパンなのか。味噌は赤か白か。掃除は毎日か、一週間に一度か。お風呂の後のタオルは別々にするのか、毎日替えるのか。夜は一緒にベッドで寝るのか。別々の布団にするのか。トイレでは立つてすべきか否か(最近の若い男子は座つてする方が圧倒的に多いそうだ)。また、知り合いの奥さんなどは、トイレの時、ドアを開けないと落ち着かないそうで、困ったものだと言っていた。極端な例で言えば、お風呂の後は裸族が当たり前という家族だつてある。

何を言いたいかというと、異なる生活様式の二人と一緒に暮らす過程で、必要なのは「寛容」だ。男性が結婚すると丸くなったたり、大人っぽくなるのは、他人と住むことで少し成長するのもかもしれない。ほかの生活様式を知ることが男性にとつても女性にとつても面倒なことばかりでなく、いい面もあるのだろう。つまり結婚というのは一種の文化の衝突、未知との遭遇なのだ。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお